

第13期 第9回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成29年9月21日（木）14時00分 ～ 17時15分

2 会 場 鳥取市役所 第2庁舎 5階 第1会議室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員（会長）、野口淑文委員（副会長）、渡辺勘治郎委員、
長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、
山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員

【教育委員会（事務局：校区審議会）】

木村義彦次長、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任
- 4 報告
 - (1) 第8回校区審議会審議概要について
 - (2) 校区審議会に関連する活動報告について
 - (3) 鹿野地域小中一貫校の設置について
 - (4) 逢坂の教育を考える会の要望書について
 - (5) 文科省小中一貫校教育の導入状況調査について
- 5 議事
 - (1) 江山校区の学校のあり方について
 - (2) 第13期鳥取市校区審議会「中間まとめ」について
- 6 その他
- 7 閉 会

5 議事の概要

事務局

只今より、第9回鳥取市校区審議会を開催します。

先月の8月31日に気高町「逢坂の教育を考える会」の方から逢坂小学校の学校のあり方についての要望書を提出いただいたところでございます。「気高町内の小学校との新設統合を望む」という旨の要望書でございました。これはまた後ほど、ご報告させていただきます。

また、これまでも現地視察等を含めご審議いただいております江山地区について、9月19日に「江山校区の学校のあり方を考える会」より、「神戸小学校、美和小学校、江山中学校の三校による小中一貫校の設立の検討を望む」旨の要望書を提出されました。委員の皆様のお手元に写しを配布させていただきます。

本日は、「江山校区の学校のあり方を考える会」の会長をはじめ、委員の方々においでいただいておりますのでご説明をいただき、意見交換の後、ご審議をお願いしたいと考えております。

さらに、前回の校区審議会では第13期校区審議会の「中間まとめ」の素案についてご議論いただいたところですが、委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえまして本日、事務局で「中間まと

め」の案を作成しております。議事では前回に続きましてこの案をもとにご審議をいただきたいと考えております。慎重なご審議よろしく願いいたします。

それでは開会に当たり会長よりご挨拶をいただきまして、以降の会の進行をお願いいたします。

会長

皆さん、こんにちは。

夏休みが終わりまして、少し涼しくなったかなと思いますが、これから少し暑さもぶり返しながらか秋になっていくのかなと思っております。秋になりますと、子どもたちにとって一番活動しやすい時期ですので、スポーツあるいはその他様々な行事も多々、各学校で組んでおられると思います。ますます学ぶという意味ではいい季節になってくると思います。

校区審議会では、本日、「中間まとめ」を審議していただきます。前回、多くの委員の皆様から様々な意見をいただいております。それを今回は事務局の方でまとめていただきましたが、本日またご審議いただきまして、この後も確認いただき、最終的に公表ということになります。細かい表現や盛り込むべき内容についていろいろご意見もあろうかと思いますが、やはり審議会としては前向きな形で、今ある課題を解決していける方法を出していきたいと思っております。様々な課題がございますが、本日を含め今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、引き続き日程3の議事録署名委員の選任に移ります。名簿順でお願いしておりますが、今回は松ノ谷委員と大村委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。次回、印鑑を持っていただきますようお願いいたします。

次に、報告事項5項目ございますが、5項目まとめてご報告いただき、その後、議事に入りたいと思います。かなり内容が多岐に渡っておりまして、地元からの要望等もございます。

それでは、事務局より説明をよろしくお願いいたします。

事務局

[資料説明]

会長

ここまでの報告事項について、ご質問、ご意見等ございますか。

4つ目の「逢坂の教育を考える会」の要望書についてですが、以前からここは少し動きがあったわけですが、正式に要望書が出てきたということで、具体的に審議を進めることになってまいります。

ただ、現地を見ないと分からないということがありますので、できれば次回、早いうちに気高町内の中学校1校と、小学校4校、逢坂と浜村ともう1つ隣の谷に瑞穂と宝木があります。そちらの視察を行いたいと思っておりますが、いかがでしょうか。距離感の把握や、現地の先生からお話を伺えればと思います。よろしいでしょうか。それまでに、本日ご質問等あれば伺いたいと思っております。

本日の会議の資料の16ページの下に、逢坂小学校の児童数の変遷が記してある表がございます。27年度からの児童数がありますが、これから先のことも含めますとおおよそ30人になるかならないかというところで推移しそうです。各学年で2人、多くても9人ということで、なかなか課題は多いだろうと思います。

先生方の課題もですが、保護者の方の中にはもう少し大きい学校に通学させたいというようなこと

が恐らくあるのかもしれませんが。また、具体的に、谷ごとに2つずつの学校になるのかあるいは4つ一緒ということを考えるのか。この辺は「逢坂の教育を考える会」からの要望書では2つあるいは4つというのは明確には明示されていませんが、その辺りはいかがでしょうか。

事務局

逢坂小学校の子どもたちは、浜村保育園に通って保育園を卒園した後、浜村小学校に通う子と逢坂小学校に通う子に分かれて進学されると伺っております。

それから、候補としては浜村小学校との新設統合というご意見もあったようですが、宝木小学校も瑞穂小学校も小規模の学校で、特に瑞穂の方が、早期検討が必要だという学校に挙がっておりますので、それを考えると4校がいいのではなど、両案を検討されたと伺っております。

ただし、具体的にどこの学校との統合ということは、要望書には明記しないことにしたと聞いておりますので、その辺りは次回の視察で直接関係者の皆様から、詳細を聞いていただいた方がよいと思います。

会長

皆様の中から何か質問、ご意見等ございますか。

委員

「逢坂の教育を考える会」がこの要望書を提出されましたが、他の小学校と情報交換会はされていますか。

事務局

逢坂と他地域の方が情報交換を行っているということは伺っておりませんが、逢坂がこのような要望書を出されたということは、各地域ご存知です。特に浜村小学校では、学校関係者のみならずコミュニティースクールということで学校を運営されていますので、学校運営協議会の委員の皆様にもその会の中で、報告されたと伺っております。

それから、以前報告したかもしれませんが、宝木と瑞穂でも「教育を考える会」を立ち上げようという話がありまして、準備会がそれぞれ行われたと伺っております。

会長

特に、逢坂と瑞穂が比較的小さい学校で、時間差があったとしてもなんとかしなくてはという状況になっております。相手校の動きに合わせて、全体として2つになるのか1つになるのかという動きにこれからなると思います。

それぞれの地域で「考える会」が立ち上がりますと、具体的な話が急速に進むのではないかと思います。児童数については、瑞穂は逢坂とほぼ同じぐらいですか。

事務局

児童数については、参考資料14ページに掲載している、平成29年度の気高中学校エリアの児童生徒数の推移でご確認いただけたらと思います。

平成29年度は、宝木小学校は70名、瑞穂小学校45名、逢坂小学校30名でございます。

委員

逢坂と瑞穂については、児童数が少ない状況で50年くらい安定していて、統合の話は以前からありました。最近特に顕著なのが、宝木小学校の児童数の減り方です。

逢坂と瑞穂については、保護者の中では、以前から統合を考えていたと思います。究極的には、気高町内の小学校で協議して一つの小学校にするのかなと思います。

気高町は「W」の形をして、西が浜村・逢坂、東が宝木・瑞穂で谷が2つ、鹿野が中にあるという地理的条件を考慮に入れると、2つずつが統合し、将来的には1つに統合するということを、以前考えられていたことがありました。

逢坂については、急遽統合の話が進んでいる感じがしています。瑞穂も「考える会」を作って、話をしていると思います。次いで、宝木も話を進める段階にあると思います。いずれにしても統合は必要だと思います。

会長

いずれは、統合は必要になると思います。同じ谷で、逢坂の児童数が一番少ないですが、これから数年先、増える見込みも無いので、最もやりやすいのは、浜村と統合することだと思います。ただ、瑞穂も50名前後の在籍児童数がいつまで続くかということも考慮しないとイケません。

委員

極端な話ですが、気高の小学校より鹿野小に行った方が近い地域もあります。例えば、宝木小学校区の上光は鹿野小学校に行った方が近いです。自分たちが小学生の頃には、上光や殿、飯里の辺りから鹿野中に通う子も結構いました。そういうことも選択肢として有り得るのではないかと思います。現実的には通いやすいですが、地域の繋がりも考えないとイケないので、実際は難しいかもしれません。

委員

公民館が気高町には4つあり、それぞれが独立して運営されています。また、まちづくり協議会もそれぞれありますし、自治会についても、気高町の代表として自治会長が市全体の会合に出席しても、持ち帰られたら、それぞれの区長会長に話をされることとなります。

したがって、小学校のみを考えたならば統合した方がよいと思いますが、地元の方によく聞いてみないとイケません。例えば、2つの学校が統合したら、公民館、まちづくり協議会、自治会も併せて一緒になるのか等、学校以外の部分で検討すべき事項が出てくるのではと心配しています。

事務局

先ほどの〇〇委員のご発言に関連して、資料5ページの要望書の4番目に「地域の郷土愛を育む教育を継続すること。」と記載されています。場所によっては鹿野小学校、中学校の方が近いということもありますが、逢坂地区での繋がりを大事にしたいという思いが強いのではないかと事務局の中で話をしておりました。

それから、次回以降になりますが、鹿野の小学校、中学校も併せて視察いただくと地理的なこともお分かりいただけるかと思います。

委員

今の子どもたちの両親、祖父母の時代には、鹿野の学校に通っていたということは随分あったと思います。

会長

要望は項目として4つ挙がっているわけですが、今、事務局次長が説明されたとおり4番目の「地域の郷土愛を育む教育を継続すること。」というのは、具体的にどのようなことですか。

事務局

はい、「逢坂の中での繋がりを大切にしてほしい」ということではないかと事務局では受け取りました。

会長

3番目の要望は通学手段ということで、市としてスクールバス等の手段を確保してほしいということですね。

事務局

はい。スクールバス、あるいは遠距離通学の補助制度についてだと思います。これは、どこに学校ができるかということで決まると思います。

会長

2番目の要望は「環境に適応できるための対策を講ずること。」ですが、具体的なイメージは何かありますか。

事務局

新設統合となった場合に、事前に子ども同士の交流等を通して、スムーズに一緒になれるような環境づくりなどの対策を講じてほしいという趣旨があるのではないかと思います。

会長

もし、逢坂地区の子どもが浜村小に通う場合、校舎のスペースは大丈夫ですか。

委員

大丈夫だと思います。

会長

浜村小の校舎には多少余裕があるということですね。逢坂の児童数は概ね各学年一桁なので、問題ないということでしょうか。

それから、保育園も浜村と逢坂が一緒に通っているということであれば、その辺りもあまり問題はないということでしょうか。

委員

新入生の時はあまり問題がないかもしれません。

会長

今は小学校で分かれているのですが、統合となるとそのまま上がるわけですから、あまり問題ないということですね。この件は、現地視察をして審議を進めていきたいと思います。

その際、鹿野についても見ていただけたらと思います。気高と鹿野は全体として考えた方がよいかもかもしれません。鹿野にごく近い地区の方は、小学校の段階から「鹿野の義務教育学校に行きます」ということになるかもしれません。

委員

新設統合とは、新しい校舎を建設するという意味での新設ではないのでしょうか。

事務局

吸収や編入ではなく、「両校閉校し、新たな学校を開校する」という意味での新設統合と受け取っております。校名等については検討されるかもしれませんが、校舎の新設ということではありません。

委員

市町村合併時の議論と同じですね。

事務局

はい。

会長

神戸とは違うイメージでしょうか。神戸の場合は、吸収でもよいというふうには受け取るのですが。

吸収ではなく、新設統合ということで、場所や建物は別として、新しい小学校をつくるという意味ですね。

事務局

はい。神戸につきましても、美和小学校の方に通学するというイメージを持っていらっしゃると思いますが、あくまで新しい学校を一緒につくってほしいというご希望があると伺っております。

会長

それでは、「江山校区の学校のあり方」ということで、先ほどお話しいただいたとおり、「江山校区の学校のあり方を考える会」の会長、副会長、〇〇委員の3名にお出でいただいております。要望書等を含めてご説明いただき、質疑応答をしていただきたいと思います。

考える会会長

お世話になります。よろしく願いいたします。

会長

検討組織作りをされて要望書が提出されるまでの経緯や実施されたアンケートの補足等を含め、要望書の内容についてご説明いただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

考える会会長

私は、平成21年から27年度まで大和地区の公民館長を務めました。その中で、まちづくりの仕事として、大和地区でアンケートをとり、地域の皆様が要望されたことをまとめ、大和史の基となるようなものを作ろうということで作成したものが、今お配りしました冊子「大和地区 ふれあい散策日和」でございます。

冊子の3、4ページに、我々が住んでいる地域である神戸、大和、美穂地区を地図に載せておりますので参考にいただき、大和地区あるいは江山校区がどのようなところなのかをご理解いただけたらと思います。

大和地区の北側が美穂地区、西側が神戸地区でございます。今申し上げた神戸、大和、美穂の三地区が江山校区でございます。

江山中の北に、美穂と大和の生徒たちが通っている美和小学校がございます。美穂小と大和小が統合した際、美穂の「美」と大和の「和」を合わせて「美和小学校」と名付けられました。

神戸地区については、神戸小学校がございます。冊子の5ページに美和小学校と江山中学校の概要を簡単に記載していますので、このような状況にあるということをご理解いただけたらと思います。以上で地区の紹介を終わらせていただきます。

次に、「江山校区の学校のあり方を考える会」の設立までの経過をお話しします。私が公民館に在籍しておりました平成27年の1月に、館長会で11期の校区審議会の資料を頂きました。江山校区が「少子化に伴い、児童生徒の減少している課題がある校区」として挙げられていることを、その資料を拝見して初めて知りました。その後、教育委員会に連絡をいたしまして、平成27年5月に神戸、大和、美穂の三地区の当時の区長会長、公民館長が大和公民館に集まり、教育委員会の方から説明を受けたというのがスタートでございます。

平成28年度になり、三地区の公民館長と区長会長と話をし、「かんの教育を考える会」が要望書を出された経過を踏まえ、美穂、大和地区としても「学校のあり方を考える会」を立ち上げなければという思いが強くなり、平成28年の9月6日に、「江山校区の学校のあり方を考える会」を設立することを決定しました。その後、委員の人選をどのようにするか検討し、最終的に平成28年10月17日に会を設立し、設置要綱及び委員会の正、副会長を決定し、本格的な話し合いが始まりました。

た。

平成28年7月には「かんの教育を考える会」が要望書を提出しました。神戸地区の少子化に伴い、子どもたちを今後どうしていくかということに対して結論を出され、近隣小学校の統合、さらには小中一貫校にしたいという旨の要望を教育委員会に出されました。

こうした動きを受けて、美穂、大和地区としても、神戸地区の子どもを含め、早急に子どもたちのために対策を講じなければならないということで話し合い、まずは住民のアンケートを実施することとなりました。

平成28年の12月に、アンケート実施について検討する会を設けまして、その中で、江山校区と比較して類似した状況にある若桜学園の一貫校を視察したらどうかという意見があり、平成29年の1月に、美穂と大和地区の全住民にはたらきかけ、視察に伺いました。

視察後の平成29年2月1日に、美穂、大和地区の全住民を対象にアンケート調査を実施し、翌月の3月にアンケートを回収し、結果が出ました。校区審議委員の皆様のお手元にアンケート結果がございますが、小学校については、91.8%（1,495人）の住民が統合に賛成でございました。また、神戸小、美和小、江山中の一貫校設立については、62.0%（1,010人）の住民が賛成し、以上の内容を踏まえ、要望書として教育委員会に提出するという結論に至りました。

要望書については、平成29年4月以降、敬老会や運動会等の様々な地区の行事と重なったため少し長引きましたが、7月になってから要望についての文書を考える会の皆様に目を通していただき、多くの意見を頂きました。

最終的には、平成29年7月26日に、小中一貫校設立検討を要望するという事で意見をまとめ、平成29年9月19日に鳥取市長、教育長に要望書を提出いたしました。以上が、要望書提出までの経過でございます。

会長

ありがとうございました。考える会の副会長さん、委員さんから何かございますか。

考える会副会長

神戸小学校は、現在在籍が24名です。来春は、5名卒業して1名入学の予定ですので、来年度は20名となります。このまま進めば20名を割ってしまう状態が常に迫っているという状況を、美和地区の方にご理解いただくとともに、こういう形で前に進めるようにしていただいて、本当にありがとうございます。また、早く要望が実現するような方向で、皆様に導いていただければありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

会長

考える会の委員さん、いかがでしょうか。

考える会委員

若桜学園の視察に至った経緯ですが、考える会の中で、まず、地域の方々に江山校区の子どもたちがどういう状況に置かれているかということを理解していただく必要があるだろうということで、地域の方を対象に説明会を開くことになりました。

その説明会を開催する中で、①現状のまま、②小中一貫校、③他の学校と統合する、の3案しか課題を解決する方法はないのではという話になりましたが、小中一貫校については内容がよくわからないという地域の方々の意見を踏まえ、若桜学園への視察を計画いたしました。

また、アンケートについては、3案の内、どの方向性でいくかという趣旨のアンケートでした。6割は小中一貫校がよいのではないかと、3割は現状のままでよいのではないかと、残りの方はその他と回答し、他中学校との統合という意味合いを含んだ回答でした。

考える会では、6割では少ないのではというご意見もありましたが、5割以上の方が望んでいるということで、皆様の意見を尊重し、小中一貫校設立検討の旨の要望書を作ろうということになりました。そして一昨日、ようやく要望書提出となりましたので、ご理解いただきたいと思っております。

会長

ありがとうございました。

若桜学園を視察された方は何人いらっしゃいましたか。

考える会委員

委員を含め全体で20名程度でした。江山校区全地域に声を掛けまして、一般の方にも参加していただきました。若桜学園にはお忙しいところ、無理なお願いを聞き入れていただき、平日の午前でしたが、視察を受け入れていただきました。

会長

わかりました。他の委員さんでご質問等はございませんか。

委員

小中一貫校設立の検討をお願いしたいということですが、校舎について一か所にまとめるのか、小中学校は美和小学校を使用して江山中学校はそのままとするのか、つまり来年度開校の鹿野学園のような形を模索されているのか、それとも全部新設されるのでしょうか。

考える会会長

現状ではその段階まで議論が至っておりません。統合及び一貫校について、了解を得るというまでにしており、この後の校区審議会のご審議を経て教育委員会から回答があると思っております。方向性が示されましたら、速やかに推進委員会を発足させて、詳細な内容についてはそこで十分に検討したいと考えております。

委員

このアンケートの対象は18歳以上とお聞きしたのですが、賛成か反対かという選択肢だけ提示されたのでしょうか。

考える会会長

大和、美穂地区の中にも多くの集落がございますので、全住民を対象に集落ごとなどで説明会を行い、江山校区の現状を説明しました。なかなか小中一貫校については、内容を理解してもらうのは難しいところはありましたが、その際、各区長、公民館長などとも併せて話をしながら、学校のあり方を考えていただいた後、アンケートを実施しました。

考える会委員

このアンケートは小中一貫校がよいか、悪いかというものではございません。先ほど申し上げたとおり課題解決のための選択肢は、3つ考えました。一つ目は、現状のまま、中学校の人数が少ないままの方法。二つ目は、小中一貫校として、人数はそう変わらないが、少しでも人数の多い中で子どもたちを生活させる方法。三つ目は、他の中学校と統合させる方法。この3つがあると住民の方々に説明しました。アンケートについても、この3つの方法のメリット、デメリットを表記し、そこから選んでいただくという形をとりました。

委員

わかりました。もう1点、よろしいでしょうか。小中一貫校というのは、何年くらい先を見通されているのでしょうか。今後、この神戸、美穂、大和地区にずっと中学校を存続させるということでしょうか。学校のあり方も「義務教育学校」という制度が出てきて、かなり変わってきているわけですが、いかがでしょうか。

考える会会長

まずは、神戸小学校の児童の集団化を実現してあげなければなりません。1クラスに児童が1人なんてことは早く解消してあげなければならず、遅いくらいではないかと思っています。

委員

小学校はそうですね。

考える会会長

まず、その対策を講じながら、中学校の教育課程の基準というのは、小中一貫校かどうかの形態を問わず文部科学省が決定していることですから、その課程において決められた教科を履修しなければなりません。したがって、小中学校を無くすことはできないのです。

江山校区の児童生徒は、他の学校に通いなさいということにならないように、小中一貫校のように1つにして、そこで生徒達を育ててもらいたいと思っています。

将来的に校区に子どもがいなくなれば、他の中学校に通うということも出てくるかもしれませんが、それはその時になってみないとわかりません。

委員

わかりました。

委員

長い時間をかけて一貫校設立という結論に辿りつかれましたが、一貫校にするまでに、神戸小の児童数減少という喫緊の課題があります。

まずは小学校だけを統合し、時間をかけて一貫校にするのか、又は最初から一貫校にするか、どちらのお考えですか。

考える会会長

先ほどもお話ししましたとおり、そこまでは考えていません。要望に対する回答が出て、それに基づいて我々の地域に合った体制をつくっていかねばなりません。ですから、考える必要があるということになれば考えてまいります。今の段階ではその段階に至っていないというのが現状でございます。

委員

わかりました。

考える会委員

この考える会が立ち上がった理由は、神戸小学校の課題を検討するためではありません。神戸小学校、美和小学校、江山中学校を含めた江山校区の学校課題を検討するために立ち上げました。江山中学校は昨年度生徒数が67名でした。鳥取県では湖南学園、若桜学園の次に生徒数が少ない状況です。したがって、小学校のみの問題ではないので、小中一貫という要望を出させていただいているわけです。小学校のみの問題でしたら、言われたとおり早く統合すればよいのですが、中学校も課題があるわけです。そういう意味で、まずは、早く結論を出し、方向性を出したかったということです。この先については、これからですのでわかりません。

アンケートの中にあつた意見で一番多かったのは、「正直言って、この校区に学校を残したい」という意見や「江山校区が小規模化により教育上の問題が発生することや、懸念される校区に指定されたことを知らなかった」といった意見でした。私も知りませんでした。公民館長も「江山中学校はこんなに子どもが少ないのか。」とおっしゃっておられました。本年度から少しずつ生徒数は増えているのですが、ここまで少ない現状を、地域の方もご存知ない状況でした。

ですから、地域の方々は「なぜ急に小中一貫校が話題に挙がるのか。」というイメージを持たれたようです。そのため、説明会の時に「小中一貫校とは何ですか。」という意見が出たのだと考えています。小学校のみでなく、中学校も大きな課題があると考えました。

考える会会長

いずれにしても、個人的には、統合と小中一貫は同時にした方がよいと考えています。

会長

神戸小学校については、「かんの教育を考える会」から要望書が提出されたとき、会の方にお出でいただき説明を伺いました。また、その後、実際に神戸小学校、美和小学校、江山中学校を見学させていただきました。その際に、各学校の実情をある程度お聞きして、校舎の位置や大きさ、児童生

徒数については、現状をある程度承知しています。

しかし、一番切実なのは、神戸小学校の児童数が極めて少ない状態にあることです。先生方はその中でもよく教育をされていますが、やはり保護者からの要望が非常に強く、今のまま小規模を続けていくのはいかがかなと我々は感じています。

場合によっては、小学校の統合を先に進めないといけないという考えはあります。

考える会会長

一番はそうです。

会長

ただ、現状では、そのところが地区としてはっきりしていないものですから、小中一貫校を設立となると、少し時間がかかるのではないかと思った次第です。と言いますのも、ただ小学校と中学校を足し算しただけではない小中一貫の良さや、一体となったイメージについてまだ掘んでおられないのではないかと感じたからです。

考える会会長

昨日、市長と教育長にこの要望書をお渡しした際に、まず一番にお願いしたことは、神戸小学校の子ども達の大変な現状を、打破してほしいということでございます。

考える会副会長

先ほど会長も言われましたが、神戸小学校と江山中学校の課題があります。神戸地区としては、地区から小学校が無くなってしまうのですが、単に美和小学校と一緒にになると、イメージとしては吸収のような形になります。そうではなく、小中一貫校を設立すれば、小学校は無くなりますが、新しい教育へと発展させる可能性を探ることができるということです。

したがって、小中一貫校を設立するとしたら統合と同時にしていただきたいと考えています。校舎は物理的にすぐ建築ができませんので、例えば、江山学園という校名にし、最初は分離型にし、その後設備を整えていただいて一体化するという方法を取れば、統合と小中一貫を同時でも可能かと思えます。

統合の後に小中一貫校を設立するとなると、また時間がかかりますので、神戸地区としては、それを同時に進めていただき、新しいスタイルの学校をつくる方向に進めたいと思っております。

会長

少し語弊がありますが、ある意味、吸収合併のような方法が早いと思うのですが、それは考えていらっしゃるということですか。

考える会副会長

それは、考えていないわけではございません。もし、教育委員会が統合か小中一貫のどちらを選ばれても、我々としては受け入れるということで要望を出させていただいております。できれば、小中一貫校設立と同時に話を進めた方がよいのではないかと私は思っています。

考える会委員

小学校の統合にしても、小中一貫校としても、ともに新しい学校となるわけです。

会長

それはよくわかります。

考える会委員

美和小学校と神戸小学校が統合しても新しい学校ですし、小中一貫校でも新しい学校です。ですから、そこに至る過程については、教育課程だけの問題であり、その後の開校に向けた作業はそれほど変わりません。

私は、岩見北小、岩見南小、智頭小、千代南中などの統廃合などに関わってきました。千代南中の統合時、佐治と用瀬中学校区の地域の方について、どのような意見が多かったかという、「統合すると部活動が増えるのではないか。」というものでした。ところが、統合してみたら、「部活動が増えない。逆に減る。」という結果になりました。そのようなこともありましたが、新しい校名や校章、校歌を考える課程を通して、統合に参加させてもらいました。智頭小の時もそうでしたが、小学校の統合は早くでき、小中一貫だと時間がかかるというのは少し違うのではないかと思います。

言われたように、吸収でしたら早いです。ただ、新たな学校づくりについて、小学校のみなら早い、小中一貫だと遅くなるという意見は、私にはわかり兼ねるところです。

会長

我々の中では、今までご説明いただいたことを加味して、神戸については、場合によっては、吸収のような形であっても早い方がよいのではないかという感じを受けていたところです。

考える会委員

そのような意味ですね。わかりました。

会長

したがいまして、小学校の統合を先に行い、二段階で考えた方が考えやすいのではないかと、あるいは神戸小の課題を早く解決できるのではないかと感じていたところです。それが、本日のお話をお伺いして、状況が少し変わってきたことがわかりました。神戸の統合も我々がイメージしていたよりは、場合によっては少し待っていただくこともあり得るかなという感じがしております。

考える会会長

一貫校ということでお願いしておりますが、小学校と中学校を一つにするということは時間がかかると言われましたが、手続き上、特に小学校についてはどうしてもそういうことになって延びるということは許されないわけです。

これは先ほど申しましたように市長にお願いしまして、できれば早く、来年の4月からでも、神戸小学校の児童たちは美和小学校の児童と一緒にしてあげたいという思いがあります。そのことにより、美和小学校に教室がたくさんあるわけでもありません。美和小学校の校舎は400名程度入れます。

したがって、十分に1クラスに机1つ持って来れば解消できると考えます。

ですから、手続上、色々とあったとしても、来年からでもできるような方向でお願いしたいということを一昨日申し上げてきました。校区審議委員の皆様におかれましても、小中一貫校が最初からできなければ、そのような方法を優先して私はお願いできないかなと思います。神戸地区の考える会副会長も言われましたが、小中一貫校ができないということであれば、児童たちはそのままになるわけですから、やはり統合は最優先だと私は思います。＃

考える会副会長

例えば、小中一貫校にするという方向を決めて、それが色々な準備があるとすれば、並行して準備を進めながら、小学校は同じ場所で学習を始めることなどはできないでしょうか。

小中一貫という方向性を決めておけば、具体的に小中一貫校の中身が決まるまでに先行して小学校と一緒にするという方法は取れないでしょうか。「一貫校で進みます」と決めておいて、小学校の児童だけは一緒になるという形です。中学校については、今と一緒にですから、その辺りは問題なくうまくいくのではないかと個人的には思っています。

小中一貫校にするとなったら教育理念をどうするかなど、色々なことがあると思いますが、それは並行して進めて、子どもたちは一緒に学習できるように進めていくということは難しいでしょうか。

考える会会長

来年の4月からでも小学校だけはなんとかしてお願いしたいというのは同じ気持ちですので、ご検討をお願いします。

委員

まず、神戸地区から、小中一貫かあるいは統合という要望書を出され、選択肢の1つとして吸収合併であれば早いだろうなという考えがありました。ただ、それを推し進めていこうっていう話ではなく、あくまでも選択肢の1つです。

今回、考える会の委員さんが話されましたが、神戸のみならず江山校区として新たな教育で小中一貫校という手段、スタイルの中でやっていくのだという強い思いを伺いました。一刻も早く「来年度からでも」という思いと、小中一貫校というゴールイメージの実現がどの程度並行して行われるかということはここでは具体的に申し上げられませんが、最終的には、小中一貫校ということを江山中校区として、最初に要望書を出された神戸地区の皆さんも含めて考えておられるということ、我々、審議委員として聞かせてもらったということだと思っておりますが、そのようなことでよろしいでしょうか。

考える会副会長

我々は、神戸地区のことは言えますが、美穂、大和地区のことは言えないことですのでそういう表現をさせていただきました。その後、神戸の要望書を契機に、江山校区で考える会を立ち上げていただいて、一貫校という方向を出させていただいておりますので、是非よろしく願いいたします。

会長

他にございませんか。

委員

今伺いますと、小中一貫校ありきで、どのような一貫した教育を推し進めていく学校なのかとか、そういうことがまだ見えないような気がしています。もう少し住民の方々等で話し合わせ、中身をもっと詰めていかれてはどうかと思いました。今要望されているのは「どのような形であれ一貫校として残してください。」というように聞こえ、その中身が見えなかったのが残念かなと思いました。

委員

今、校区審議会で議論している中で、小学校の小規模と中学校の小規模は捉え方が少し違ってきます。

小学校は、多少小規模であってもメリットもあるのでいいのではないかという意見もあります。中学校は、やはり小中一貫校になっても同学年の生徒が少ないということがあります。どうしても、中学生になるとある程度人数が確保できてないと教育的効果が小さいのではないかという議論があります。ただ、そうすると中学校区の統合となると、かなり大きな、他の中学校区との話し合いになってきます。その辺りは、まだ校区審議会の中でも話はまとまっていません。

江山中学校だけに限らないのですが、中学校区はもっと大きな市全体のイメージで学校のあり方を考えないといけないのではないかという意識があり、江山校区の小中一貫校はためらっているというところがあります。と言いますのが、小中一貫校ができてしまうと、また何年後かに中学校同士が統合したり、新しい学校となったりすることも考えられ、それは好ましくないのではないかというのがあります。

私だけの考えかもしれませんが、できれば今から、ある程度中学校の規模などもこの審議会の中で固めておいて、その上で江山中学校の小中一貫校がいいのかどうかというのを議論した方がいいのではないかというのがあります。

そこまで議論が進まないというのであれば、やはり神戸小学校のことがあるので、二段階で、まずは一貫校で話を進める、それとは別に中学校区全体は鳥取市全体をもう少し考えるというやり方でいくのかなということだと思います。

そのようなことですので、「江山校区の学校のあり方を考える会」の皆さんからすると、小中一貫校について、反対されているのではないかなという感触を持たれているのかもしれないですが、中学校は一貫校になっても規模は変わらないということで、少し躊躇しているということを知りたいと思います。

会長

江山中を見学した時、部活動でチームが組めないという状況を知りました。平均して1学年1クラス20人くらいで、中学生がこれから色々ところで揉まれながら力をつけていくには、規模としては小さいと感じています。

小中一貫の場合は、例えば鹿野の場合は、やはり鹿野に小学校も中学校も残したいということもあり校舎も分離なのですが、「5・4制」という新しい教育を取り入れました。教育の内容については、

県外まで行かれ色々な情報を収集され、「こういう小中一貫を作りたい。そのためには『5・4制』を導入し、6年生を中学校の枠組みに入れて新しい教育をしたい」ということで、地区としてどういう子どもを育てたいのか、そのためにはどういう教育の仕組みを住民としてサポートしていくのかというのがとても分かりやすい状況がありました。

本日のお話ですと、「小中一貫を早く決めてほしい。決めてもらえば地域で考える。」ということだったと思いますが、子どもたちのことよりも地域の思いが強いように感じました。もちろん、そのことも大事なことなのですが、どういった子どもを育てたいかということをもう少し押しただけならと思いました。

考える会委員

考える会会長が説明されたのはハード面のことです。要するに、いつから小中一貫になるのか、校舎はどこにするのか、分離型にするのか一体型にするのかそういうことについてはこれから考えていくという意味で説明されました。

教育課程については、少し言われましたが、小中一貫のメリット、小学校と中学校の教員の交流などを通じて学力向上につなげるというのは、説明会の時に地域の皆さんにしていまいりました。少人数ということを見ると、小中一貫校が学力向上に最もつながると思います。

生徒指導の面でも9年間通してできる、地域全体としても子どもたちを見ていける、そういう形で地域の方には説明させていただきました。この文言には含まれていませんが、「5・4」とか「3・4・2」とか色々な分け方がありますが、それについては先生方と協力しながら、教育課程のこともありますし、今後考えていきたいと思います。我々が、この「江山校区の学校のあり方を考える会」でどうするかということまでは決められないので、会長も申しましたが、あくまで方向性だけを決めさせていただいて、それからさらに詳しいことを検討していこうということです。

考える会会長

一貫教育について、一貫校とセットにして考えていかないといけないわけですが、まずは一貫校ということについて意見を求めました。住民の皆さんにはわかりにくく、なかなか理解いただけなかった部分もあったかもしれませんが、集落ごとなどに細かい単位で説明はきちっとしてきております。教育委員会にも来ていただいてしていただきました。

まずは、今の段階では方向性を決めたところです。次の段階というのは、おそらく色々な考え方を持っておられる方がたくさんおられると思いますので、その後については結論が出てから速やかにやろうということにしています。学校での子どもの教育は先生方のやられることです。地域の一般住民がやるわけではなく、先生方の大変なご尽力が必要です。子どもたちを良くするためには時間もかかると思います。ただ小中一貫校にすればいいという考え方ではありません。

現状として、一人だけのクラスにいて、集団ができずに一人で朝から過ごすわけです。大変な状況です。小中一貫校になれば、持ち上がりで全員が同じ中学校に行きます。神戸小学校の子も最終的には江山中学校に通うことになります。そのような面からも小中のギャップというのは無いと思います。みんな小学校の子も仲良くやっています。とにかく1人や2人で学習するという現状をまず解消してあげたいと考えています。また、先生方を応援しながら、地域の子たちが他の地域の中学校の生徒たちに負けないような教育環境を作り上げていきたいという気持ちです。

そういうことで、ただ単純に小学校と中学校を一緒にしたらいいという考えでは決してございませ

ん。

会長

他にはよろしいでしょうか。

熱い思いは伝わったかと思います。「江山校区の学校のあり方を考える会」の三人の方々からご説明いただきました。この後、また私たちが審議をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

本日はどうもお忙しいところありがとうございました。

会長

それでは、ただ今の説明を受けて、感想でも結構ですのでお一人ずつご意見を伺っていきたいと思います。

委員

先ほど少し言わせていただいたとおり、何か熱い思いはわかるのですが、まだ少しちぐはぐな感じがしてもう少し地域の方と検討をなさった方が、いいのではないかという感想です。

会長

小学校については約9割の方が統合に賛成ですが、小中一貫校については約6割というところではいかがでしょうか。

委員

そうですね。やはりちょっと賛成62%というのは若干少ないかなと感じています。もうすこし住民の方も、これから勉強会を重ねられ、もう少し話し合いをされる方がいいのではないかなと思いました。学校を残すために、一貫校を選んだら残るのではないかという気持ちが何となく見えるような気がしました。

委員

私も、小中一貫のメリットというのが見えにくいと感じました。中学校自体が変わりません。その辺りを見出していかないと先に進まない気がします。小中一貫にしてどうなるのかというのが見えてきませんでした。数も多くないですし、一貫校にしても状況はあまり変わらないのではないのでしょうか。その辺りを、いい方向に持っていけるようなことがあればいいと思います。鹿野などは、いい具合に考えておられるのかもしれない。

会長

小中一貫校が決まってしまうと、どういう教育をするかは先生の問題のような説明がありましたが、そうした中では、コミュニティースクールを運営というのは難しいかもしれません。謳い文句としてはやっても、実際に地域のサポートが得られるのかという心配もあります。

委員

どこかと一緒になるという方策は出ていないのですか。やはり中学校は残すということでしょうか。小さくても残したいということであれば、そのために一貫校にするというところなのでしょうか。

会長

それが中学生にとって本当にいいのかということがあります。

委員

考える会の方の非常に熱い思いは確かに感じられましたが、中学校については賛成される方も反対される方も含めて、賛成される方が半数よりもちょっと多い62%で、十分に議論がなされているのだろうかと思いました。これは説明を受ける前から感じていたことです。

少し先走っておられる感じに受け取られるものがあつたので、もう少し時間をかけて議論された方がいいのかなと感じました。確かに、地域の中に学校を残したいという気持ちはよくわかったのですが、まずは小学校のことを中心に考えていただいて、その間に地域の中でもう少し議論していただいた中で中学校をどうするか考えたらいいと思います。現状では、一貫校というのはなかなか難しいのではないかと思います。もう少し考えた方がいいと思います。

委員

神戸小学校が美和小学校に統合というイメージかなと思っていましたので、本日、一貫校の要望を出されたということについて驚きました。「1+1」ですぐに一貫校ができるわけではなく、もう少し議論なり、説明なりを経て、それなりに準備段階があつて、鹿野地域でされていますが、どういう段階を踏んで一貫校に持つていくのかなどが必要だと思つています。そんな来年とか再来年とかで、すぐできるのかと言われたら、そんなにすぐにはできないと思つています。そのあたりも含めて、地域のことでも大事ですが、まずは子どものことを考えると現実的には審議会としてこれまで話し合つてきた、神戸小学校を美和小学校に統合するという方向でもつていった方が、この会としてはいいのではないかと感じました。

委員

先進校視察として若桜学園に行かれたということですが、私も今月、用があり若桜学園に初めて行ってまいりました。若桜学園は施設一体型です。若桜町という自治体の中に、1小1中しかない中で小中一貫校ができました。そこに視察に行かれたのですが、江山校区は鳥取市の中にある2小学校、1中学校で成る校区です。見に行かれたのはいいのですが、若桜学園のみの視察で、小中一貫教育とはああいうものなのか、ああいうものを目指そうと思われるのは少し勉強不足といひますか、調査不足のように感じました。見に行かれたこと自体はいいことなのですが、あまりにも条件といひますか前提が違いすぎるかなという印象を持ちました。

また、このような子どもを育てたいから、このような教育をしたいというのが絶対譲れない手順だと思つているのですが、そこがひっくり返つていふような気がしました。方向性についても、「校区審議会、教育委員会の方で出してください。あとはそれから私たちが考えます。」といふのは、少し違ふのではないかと感じました。大きな方向性を出しながら、「こつういう教育がしたい。」といふ考え方を

していただかないと、ただ漠然と「小中一貫の方向性を出してください。」ということをお私たちに求められてもそれは違うのではないかという印象を持ちました。

もう一点、現状の江山中学校の人数で、小中一貫校あるいは義務教育学校の後期課程、いわゆる中学校段階の教育について、部活を含め、維持していくのは、厳しいと思いました。他地域の中学校との統合なども考えて行かないと、充実した後期課程（中学校段階）の教育は維持できないと思いました。そのあたりの認識もまだしっかり持たれてないのかなと感じた次第です。「小中一貫にすれば、みんな一緒にできるのだ。」と思っておられるような感じもあり、実際そうではないので、そのあたりもう少し勉強していただきたいなという印象をもちました。

副会長

私は、少し皆さんと考え方が違ってきます。この審議会の最初に、事務局の方にお聞きしたことがあるのですが、例えば「6・3制」が当たり前ののですが、それを「5・4制」にするということをして一体誰が決めるのでしょうか。今回、江山校区の教育のことを決めるため、地区の代表の方に、そこまで求めるものなのかなという気が、当初からしていました。例えば、江山校区で、地域の方が神戸小学校の児童数が少なくて困っているのです、その方たちに「5・4制」などを決めさせる話なのかなということなのです。

神戸小学校がとにかく小規模だから何とかしてほしいという要望について、「江山校区だけの話だけではなく、全体の話である。」と言いつつ、江山校区の人に鳥取市全体のことを考えていただくといつても、どこまで地区の代表の方に求めるのかということが、どうしても私の中にあるのです。

地区の方が、「5・4制」がどのような点でいいのかというようなことを調べ、審議会や教育委員会を納得させるかというのは、少し違うような気がします。鹿野では、うまくいっているようですが、例えば、旧気高郡で一緒になるといった時に、鹿野の人だけで何年もかけて様々なことを調べられて青谷と一緒にとなるとなった場合、そのあたりの調整はどうするのでしょうか。私の中では、「教育を考える会」の人に色々なことを求めすぎなのではないかと思っていますところなのです。

事務局

福部と鹿野の様子を少し報告させていただきます。福部と鹿野も江山と一緒に、小中一貫校ということでしたが、福部と鹿野は地域での議論が実は全く違っていました。

福部の場合は、小中一貫校として地域に学校を残したいということでした。ただ、理数教育や英語に力を入れて、地域の外から子どもを呼び込むということも要望にございました。その後、小中一貫校で向かうという教育委員会の方針を受けて、小中一貫校推進委員会を組織し、教育関係者もその中に入り、施設を一体化しようということや、9年間の子どもの像の設定について、議論されていました。

鹿野は、ある程度、要望の段階でこういう子どもを育てたいという議論をされて、要望書を提出されました。その中には、施設分離という要望もありました。その後、福部と同じように小中一貫校で向かうという方針を受けて、小中一貫校推進委員会を組織し、具体的な子ども像については要望書をもとに推進委員会の中で考えておられました。また、「5・4制」というのも、推進委員会の中で学校の教職員が視察等に出かけ、分離でやるならこの体制がよいのではないかという議論をされました。

委員

それは何年くらい議論されましたか。

事務局

福部は1年3か月。鹿野は少し長く、来年の4月の開校までのトータル2年弱で小中一貫校推進委員会の中で決められていくことになります。

委員

湖南はどうですか。

事務局

湖南は、教育委員会が主導した形でした。当時は、小中一貫校というのがまだ全国でも少ない頃でした。最初の2年間は、全国の小中一貫校を色々と視察をされて、その上で、残りの2年間は、地域でどういう学校をつくっていかうかということを検討されていました。

委員

それでは、4年がかりということですか。

事務局

そうです。

「江山校区の学校のあり方を考える会」の会長から、「平成27年5月に教育委員会が説明に来た。」というお話があったと思います。第12期の「中間まとめ」を持って説明に伺いましたが、江山中学校エリアの学校の選択肢の一例として、小規模校転入制度や小中一貫校制度を、小規模のデメリットを解消する一つの方法であるということで説明をさせていただきました。

小中一貫校というのは、学校統合も含めて教育委員会が示した例をもとに検討された結果だと思います。

委員

今のお話の中で、基本的には「江山校区の学校のあり方を考える会」で出した方向性であるということで、地域の皆さんが賛成だということがわかりましたので、進めていけばいいと思います。

小中一貫校については、小学校も中学校も今の数より増えないですし、子どもも増えるわけではありません。ただ、教育上は効果があるのですが、子どもの数が増えないということがあるので、今まではそこまで強く考えられなかったと思います。

今までの「教育を考える会」は、多くの場合は自治会長が委員を様々な組織から集めていらっしゃいました。しかし、今回の江山のように、新しく教育者だった方などが地区のリーダーとなられたら、教育の内容の話が「考える会」に入ってくるわけです。そうして、小中一貫にした方がよいという方がだんだん増えてきたということもあると思います。

その中で、アンケート結果では約30%の方が、現状がよいということですが、中学校のエリアを

もっと広げた方がよいという考えを持っておられる方もおられると前の自治会長さんから聞きました。その考えの方も、おそらくその30%の中にも入っているのかなと思ったところです。

また、今のままで小学校が一緒になったら、中学校と離れてしまい、分離型の教育になってしまいます。ところが、先ほどの考える会の方のお話を聞いて、もしかしたら、小学校の中に中学校を全部取り入れて一貫校にしたいという希望があるのではないかという感じがしました。

地区にとっては、小中一貫校になるというのは、地域に子どもが増えるわけでもないのに、あまり関心のないことかもしれません。子どもがいる家庭は関係があっても、そうでない家庭はあまり関係のないことです。そういった中で、新しい方が地域のリーダーになったことで、皆さんが考えるようになったのではないかと思います。

やはり、地域において、「教育を考える会」というものをどんどん作っていただいて、皆さんに色々なことを認識していただかないと、話が進んでいかないと感じました。

委員

今回、三人のお話を伺い、どう思ったということは私にはございません。湖南、福部、鹿野と小中一貫、それが義務教育学校に発展してきました。私は、湖南に平成17年から19年までおりましたが、準備だけ携り一貫校開設の時は他校に転出しました。一貫校の導入時でしたので、行政主導でしたが、慎重に進め、各地域に出かけて多くの説明会をさせていただいた覚えがあります。

そして、福部、鹿野の例を考えると、1つの切り札として小中一貫校があるのだという思いがあります。

要望書を提出した地区に勉強しろというのではなく、慎重に議論を尽くすことなどを導くのが行政であり、審議会ではないのかなと思います。したがって、熱い思いとともに、その熱い思いを具現化する方策なりステップを導いていくということも私たちの仕事かなと思いながら聞いていました。

そのため、私は、要望書を、地域のお考えとして受け取るだけで終わっています。

新聞には、本日も、倉吉の校区再編、関金と山守の課題が掲載されていましたが、鳥取市の、校区審議室の、行政のあり方は、地域の意向を大事にするために「教育を考える会」を立ち上げてくださいと後押しするというものです。それは、徐々に様々なところに根を拡げてきているのかなと思います。その根が太い幹となり花を咲かせるためには、肥料が必要で、私たちが水を与え、太い幹にしていけないといけないのではないかと思います。

委員

切り札と言われましたが、湖南が頑張っていて検討されていた時に、本当に素敵なリーダーがいらっしゃり、引っ張っておられました。行政主導であったとは思いますが、それに協力しておられた姿を見ました。

それから、佐治が小中一貫ではなくて統合に賛同されたのも、地元で声を上げられた方がいらっしゃり、うまくいったということも聞きました。このようにリーダーが動かせないと動かない、というのは事実ですから大切にしたいなとは思っています。

しかし、その選択肢があまりにも少なすぎて、切り札が1個しかないというのであれば、例えば3年や4年先ではなく、20年とか30年くらい先を見据えて、地域の人口減少対策も含めて考えないと可哀想な気がします。

要するに、少なくなっているので、切り札にしがみつかれているのではなく、湖南にしても鹿野にしても、今のあり方を模索しながら進んでいるのは事実です。他地域で小中一貫校を認めた以上は、その方向性をもう少し挙げていきながら、20年、30年先の新たな学校の規模、合流、経営なども考えるというのも1つの手ではないかいうことを少し思いました。

委員

私は、皆さんと同じ熱い思いを感じましたが、来年からしてほしいという意気込みで言っておられたことは、現実的には時間がなさ過ぎるため、厳しいと感じています。新しい学校の名前を決めるのは相当苦勞するでしょうし、校章や制服もどうするのだろうと思います。

智頭が統合する時に活躍されたPTAの方をよく知っていますので、本当に夜寝ないほど頑張っ、時間と苦勞されていたのに、来年の春までにできることではないと思って聞いておりました。もう少し時間をかけて議論をされた方が、よい形として進めると感じた次第です。

平成25年くらいから検討を重ねてらっしゃると言われているのですが、もう少し、濃い議論をされるべきではないかと思えます。中には、猛反対される方がいるのではないかと思いながら聞いておりました。賛成が60数%という数字も、もう少し上げる必要があるのではないかと感じるとともに、現在、小中一貫校をされているところはうまくされているのだなと感じました。

委員

「江山校区の学校のあり方を考える会」のご提案は、最短でスマートというのが私のイメージです。他県の例ですが、小中一貫校を前提として、ひとまず小学校を一度統合し、その間に小中一貫校の準備をする学校がありました。小学校の小規模化が、ひとまず解消され、その間に小中一貫校を整備するので、大変合理的な提案であると思いました。

しかし、先ほども申し上げましたが、本来は、校区審議会である程度、小学校の規模や中学校の規模を審議しなければなりません。地域として、他の学校とは統合が難しい学校が、小規模であることをプラスにするための方法が、小中一貫校制度や小規模校転入制度であると思えます。教育力を高め、小規模校転入制度を活用し、他地域から児童生徒を呼び込み、規模を維持することで小中一貫が成り立つと思っています。

そう考えると、江山校区の場合は、選択肢として中学校の統合もあると思えます。例えば、河原と新しく中学校区をつくる、あるいは高草中と統合するという選択肢が可能な地域です。福部や鹿野のように他と統合しにくいわけではないので、一度、小中一貫校ができてしまうと、選択肢がなくなってしまう、なかなか中学校として維持しづらいのかなというイメージがあります。

そのため、校区審議会としては、しっかりと規模というのを議論した上で、江山校区の小中一貫校がどうなのかという判断をすればよいのかなと思っています。前にも言われたように、あくまで、小学校は統合する方向で進めた方がよいと思いますが、中学校に関しては、もう少し議論してから決めるのか、または小中一貫校で進めていただきながら、それとは別に校区審議会での将来的な展望を持って議論するというスタンスなのか、いずれかなのかなと思いました。

会長

ありがとうございました。皆様のご意見をいただきました。なかなか難しいケースであると思えます。

1つは、アンケートでも90%の方が小学校については統合賛成ということで、これが吸収なのか対等合併なのかは色々ありますが、こちらは先に進められると思えます。

小中一貫については、60%の方が賛成ということで、先ほど〇〇委員がおっしゃられたように、材料をこちらから提供する必要があると思えます。それとともに、中学校が60人ですので、7～9年生が60人というような学校で、いかにして効果を上げるのか、あるいは外から児童生徒が来るよ

うな魅力は何なのかを考え、もう少し中身を詰めていただいた方が、結論としては将来的に良い学校ができるのではないかと思います。

それから、小中一貫校に決められなくはないのですが、現在の状態ですと、サポート体制が中々取れず、中身を詰めないまま進んで行ってしまうのではないかという心配はあります。決めた後は、先生方がよい教育をすればいいということだけでは無いような気がしており、少し心配なところです。

やはり、我々としては一学級、一学年の児童生徒数や、学校としての適性規模というのが頭にあるわけで、それがないと、この校区審議会の意味がないわけです。それを踏まえますと、小中一貫校ができたとしても、10年後にまた中学校だけが分離し、統合せざるを得ないような状態もあり得ると感じています。

20年後、30年後というのは、予想がつかないのですが、一旦できたものが10年程度でまた変わらざるをえないことがあるかもしれないことも承知の上で進めないと、小中一貫は長期的には難しいかなと思います。

なかなかまとまりませんが、もう一回地域の方と話し合いを持つのか、あるいはこの審議会でもう少し詰めて結論を出すのでしょうか。

事務局

先ほど会長もおっしゃられましたが、本日、委員の皆様からも「どこまでこの審議会ですすのか」など様々な意見がありました。

その辺りも含めて次回、もう一度ご審議いただけたらと思います。

会長

わかりました。今回は地元の方からご説明いただきましたが、我々は「小中一貫ではなく、神戸が先ではないか」というイメージを持っていました。統合ではなく、小中一貫となると、もう少し時間が必要なのかなと思います。

事務局

「江山校区の学校のあり方を考える会」の要望書の下段を見ますと、「9学年という多学年との対話をもとにした交流を軸として、学校生活や学力向上を含め、自分の考えや思いを伝えられる力や誰とでも関わることができるコミュニケーション能力の高い子どもを育成してほしい」という思いも書いておられます。この辺りの説明が、あまりなかったのではないかと思います。小中一貫校という話が前面に出ましたので、もう少しこのあたりを説明していただけたら、違っていたのかなと感じました。

再度ご審議いただけたらと考えます。

会長

本日来られて、回答の時期を待っていらっしゃるのですか。

事務局

回答の時期を待つというよりは、今回の要望を頂き、まずは校区審議会でご審議いただき、ある程度方向性を出していただいた後、教育委員会の中で審議をして、最終的に決定していくと、考える会の方にはお話ししております。

委員

最終的には、行政判断という部分もありますよね。

事務局

そうですね。最終的にはそうなると思います。

今後、教育委員会の方向性が出れば、小中一貫校を推進するための委員会のような組織を立ち上げ、もう少し具体的なところを煮詰めていきたいということも、本日の委員さんはおっしゃっていました。

会長

考える会の方から来年4月からという話があったかと思いますが、そういう可能性はあるのですか。

事務局

いえ、ございません。先ほど考える会の皆さんをお見送りする際、会長にも確認いたしました。考える会の委員さんも「それがないことは皆分かっています。とにかく神戸は急がないといけないという思いを伝えたかったところです。」ということでした。来年の4月は、スケジュールを考えてもありえないと思います。

会長

神戸だけを考えますと、今年度の遅くならないうちに校区審議会、そして教育委員会と案が通れば、来年の6月議会で決定され、次の4月には学校が移るといようなイメージでしょうか。1年半先は可能ですが、半年先はどうやっても無理ということですか。

事務局

そのような形かと思います。新設校にするには、当然条例にする必要がありますし、平成30年の4月は無理であると考えます。早くても平成31年の4月かなと思います。

会長

〇〇委員が先ほどお話しされたように、小中一貫にするとなると、もう少し時間がかかるといいますので、小学校の統合は早い方がよい気がします。その段階で、将来的に小中一貫にするという結論は出さないと、地域はなかなか納得されないでしょうか。

事務局

議論が浅いということもあったかもしれませんが、小学校だけではなく、小中一貫校を念頭において議論を重ねてこられたというところは、尊重しなければならないと感じています。

会長

ただ、小中一貫校にすれば学力が向上することが多い旨のご説明でしたが、そうではないと思います。同じメンバーで9年間も一緒に、全く刺激がなくて本当によいのかという考え方もあります。それなりの工夫をしながらのことであると思うので、地元の応援もかなり必要ですし、外から子どもが入ってくるような仕組みも導入しなければと思いますが、そのあたりがまだ薄いと感じています。

小中の選択肢が1つしかない若桜学園と比較しても、鳥取市は、場合によっては選択肢がある場合もあるので、もう少し他校を視察する、あるいはこちらから情報を出してもよい気がするのですが。

事務局

方向性が出て、推進委員会を立ち上げるということになれば、湖南、鹿野、福部が義務教育学校としてスタートしていきますので、こういったところも視察されていくのかなと思います。

会長

前例があるので、なかなか否定しづらい部分があります。それはわかります。それなら、なおさら流されず、ただ波に乗るだけはいけません。「自分たちで学校を作っていく」、「後押しをする」という思いで中身を充実させるとともに、「小規模学校でも魅力的な教育を受けられる」ということを出していただければと思うのですが、そこがまだ見えません。再度議論をしていただくということよろしいでしょうか。

議事（1）については、以上で終わります。

〈休憩〉

会長

それでは、議事の（２）、「中間まとめ」について、ご説明をよろしくお願いいたします。

事務局

[参考資料説明]

会長

ありがとうございました。委員の皆様のご意見を踏まえ、修正をしていただきました。参考資料10ページに「望ましい1学級あたりの児童・生徒数及び1校あたりの児童・生徒数を設定すべきと考える。」とありますが、具体的にどの程度かということについて、皆様のご意見を伺いたいと思います。

なお、〇〇委員から千葉県と茨城県の自治体における「適正配置基本方針」を参考資料として提供していただきましたので、ご確認ください。

資料について、少しご説明いただけますでしょうか。

委員

素案の修正の段階で、全国的にはどうなっているのか気になり、調べて見つけた事例です。

山武市の資料17ページをご覧ください。真ん中辺りに「本市における望ましい定員数」とありますが、「1学級あたりの児童生徒数」について、25～35人と記載があります。この人数の設定は、17ページ上部のアンケート結果を踏まえたものです。

続いて、土浦市の資料11ページをご覧ください。「市民アンケート結果考察」ということで、小学校における「望ましい1学級の人数」の項目で一番回答割合が高かった人数が21～30人であり、6割以上の支持がありました。12ページは中学校における望ましい人数ですが、21～30人が一番多く、6割以上の支持がありました。同じページに、「以上の結果から、小学校は2～3学級で21～30人クラス、中学校は4～6学級で21～30人クラスが理想的であるという意見が大半を占めると考えられます。」という記述があります。

学校の中に何クラスある方がよいのかという議論はよくされますが、1クラスの数や1校あたりの人数が答申などに出ることは珍しいことです。今回は人数の記載をせず、今後提示するのか、仮に記載するとしても、現実と照らし合わせた際、どれだけ意味を持つ数となるのかということについて、事務局に意見を出させていただきました。

会長

ありがとうございました。今ご説明いただいた状況にあることを念頭に置いていただき、皆様のお考えをお伺いしたいと思います。

委員

1クラスあたりの人数を出してしまうと、制限が大きくなるのではないのでしょうか。鳥取市の場合は、小規模の学校もかなりあります。今後の校区審議で将来の編成を見据えて、必要ならば提示すればよいので、問題提起としてはよいと思いますが、今の段階では提示しない方がよいと考えます。

会長

今おっしゃったことや、小規模校と大規模校の差が激しく、適正人数の算出が難しいという鳥取市の現状を踏まえて、どのくらいが適正でしょうか。

委員

1クラスあたり20～30人かと思います。

会長

それは、小中同じですか。

委員

様々な事情を考慮に入れると、小学校の低学年は少ない方がよくて、高学年は30名程度でよいと考えます。

会長

わかりました。1クラスあたりの適正人数が決まれば、クラス数を考慮に入れて、掛け算すればよいので、1校あたりの数は決まりますね。

1校あたりの標準規模については、ある程度示されているのでしょうか。

委員

今の中学校は、全部下回っています。

委員

標準規模を下回っている学校の方が圧倒的に多いと思います。

委員

100人に満たない学校が多いので、1学年に2学級、3学級となると、足りない学校が多いです。当然、4学級、5学級だと足りません。ただ、1学年に1学級ですと目安としては変ですので、2学級くらいだと思います。

1学級あたりの人数は、30人は無理ですので、20人程度だと思います。

会長

今すぐに公表するのは難しいですが、それを踏まえていかがでしょうか。

委員

「望ましい」ですから、義務ではないわけですね。1クラスあたり小学校でしたら20人、中学校でしたら40人は多いので、20～30人くらいかと思います。

クラス数については、3～4クラスはないので、2～3クラスあると、クラス競争などができてよいかと思います。

私は、望ましい数については、ある程度提示してもよいと思います。

委員

鳥取市における望ましい定員数という表現にして、1クラスあたり20～25人にしておかなければならないと思います。

ただ、100人に満たないことが駄目なようなら、35人にすることも考えられますが、満たない学校が多いので現実的ではないです。そうであれば、20～30人にする方法も考えられます。

クラスについては、2クラスにすると、多くの学校が該当するのでこれも難しいかと思います。

「中間まとめ」に掲載するということが前提でしょうか。

会長

事務局いかがでしょうか。

事務局

表現が「望ましい」となっていますが、事務局で想定していたのは、「最低何人は学級にいて欲しい」という基準です。

現在、鳥取市内の小学校、中学校については、6学級～18学級としております。クラスに10人いない6学級の学校もあれば、同じ6学級でも1クラス30人の学校もあり、一括りに「6学級あるから標準規模」と言ってしまうのかということがあり、このような基準も定めてはどうかと考えた次第です。

そして、ご存知のように、今後「対話的で深い学び」なども求められている中で、学級に最低何人必要という基準があると、今後の学校のあり方を検討していただく上で参考としていただけないかということを考えてみました。

理想としては、先ほどお話がありましたとおり、20～30人かなと思います。

委員

1クラスを理想にするのは変なので、小中ともに、1学年2～3クラス、1クラス21～30人が妥当なのではないでしょうか。

委員

適正規模を提示して、何を求めるのかが少しわかりません。

会長

「鳥取市において」などただし書きがあるかもしれませんが、だいたいその程度でよいでしょうか。最低とつけると重みが出ますが、対話をするとなると、1クラス最低10人程度でしょうか。

委員

数字は提示した方がよいと思いますが、数字の根拠を求められると難しいところです。

会長

山武市と土浦市についてはアンケートを取り、それを基に算出しています。

委員

現在、複式学級になるのは、最低何人からでしょうか。

事務局

2学年併せて、15人以下の場合です。

委員

1年生はどんなに少なくとも複式学級にはならないですね。

委員

確かに、1年生は複式にはしません。

事務局

県の基準でそうっております。国の基準では、最低で3学級の小学校が存在しますが、鳥取県の基準では、1年生は単学級ですので、必ず4学級以上になります。

会長

「中間まとめ」に提示するかどうかは別として、望ましい規模と最低規模の考えをまずはお伺いしておきたいと思います。

委員

私の地区の小学校は、全校生が180人くらいで、全学年1学級です。そのため、子どもの競争がないのではと心配するのですが、中学校に入ってからそんなに差がないので、1学級でも問題ないと思います。

毎月、小学校の授業参観に伺うのですが、入学時、30人の児童に先生が一人ついており、「先生は大変だな」と思っていたところ、2ヶ月が経つと、みんながきちんとしています。教育の仕方で変わるのだなと感じました。

ですから、1クラスあたりの児童数が多いか少ないかより、先生の指導が大切だと思います。

個人的には、先生の目が届き、みんなが発表できるので、20人程度が一番よいと考えます。これについては、教育委員会の事情もあるかと思いますが、30人でも心配ないと思います。

副会長

私は40人いる学級で育っていましたので、40人いてもよいと思いますが、何人が望ましいのかという基準が果たしてあるのでしょうか。

委員

参考資料10ページの「また、効果的な～」の文については、今回は不要なのではないかと思います。「設定すべき」とありますが、設定したところでどのような効果があるかわかりません。

委員

賛成です。

委員

この文を入れる、入れないという判断はつきませんが、人数については、小学校が1クラスあたり20～25人、中学校が20～30人くらいかなと思います。

委員

私も、制限がない方がよいと思います。現実的な問題としては、ある程度人数がいないと教育効果が得られません。先ほど言われた人数も、確かに必要な部分もありますが、少人数なら少人数なりの教育をされると思います。

ただ、2学級はあった方が望ましいという思いがあります。1クラスですと、クラス替えができません。

委員

基準の数字はあってもよいと思いますが、具体的な数はわかりません。

委員

その文はあってもよいですが、何人ですかという問いに対して答える根拠がなければ、記載しない方がよいと思います。

先生が見られるのは、せめて、20～25人かなと思います。15人、16人のクラスですと、みんなが手を挙げれば発表できるかと思います。

また、年齢に応じて望ましい人数も異なるのではないのでしょうか。現在の小学校1年生は、30人で、他の都道府県よりも少ない設定であると思います。

会長

小学校1年生は少なめという、鳥取県の方針がよいということですね。

委員

そう思います。

会長

わかりました。この2行については、意見が難しいと思います。数字も出しづらいですし、根拠が曖昧ですので、後ろを取った方がよいという意見もございますが、それでよろしいのでしょうか。

〈意見なし〉

会長

わかりました。その他全体でご意見をいただきたいと思います。

また、この「中間まとめ」の案をご自宅で見させていただく時間をもう少し頂けたらと思います。

事務局

本日、この場でご意見がないようでしたら、お持ち帰りいただき、お気づきの点がございましたら今月末までに事務局にお届けいただきたいと思います。それを踏まえ、事務局で修正した後、委員さんにご確認いただき、決定していただきたいと考えています。

会長

そのようなことでよろしいでしょうか。

10ページの2行については削除するということがよろしいですね。

事務局

10ページを含め、若干の修正がございますので、修正後は皆様にご確認いただき、最終的に、会長から教育長へ「中間まとめ」のご提出をお願いしたいと考えています。

会長

「中間まとめ」を公表するにあたり、市民の方々に周知していただくことになります。12期の時は、どのように進めてきたかを含めて、どのような形がよいか事務局で、提案等がありましたらお願いいたします。

事務局

12期の「中間まとめ」は、全公民館長が集まる会で資料をお配りし、ご説明しました。それから、小規模小学校として記載がありました気高地域、河原地域につきましては、地域審議会に出席させていただき、同様に説明させていただきました。

先ほどお話にありましたとおり、江山だけは緊急性を要するというので、3地区の方に説明をして、その後、神戸で会の立ち上げがなされたという経過がございます。

市内の小中学校とPTA連合会については、直接説明はしていませんが、資料を配布させていただきました。

会長

今回もそのような方法になりますか。

事務局

千代以西エリアは前回を受けてのことですので、もう少し地域を絞っていただき、例えば、ここは直接説明に行くなど、事務局にご連絡いただければ、説明をさせていただこうと思います。

会長

様々な方策について多くの方々に知っていただくとともに、要望書の提出があった課題のある地域については、丁寧に説明をしていけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

今回は、気高の4小学校と1中学校、できれば鹿野も視察をし、現場の先生や地元の方とお話をしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の案件は以上でございます。それでは、事務局の方に進行をお返しします。

事務局

会長のお話にもありましたが、なるべく近いうちに現地視察を行っていただけるよう調整していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

長時間に渡り、慎重にご審議いただきありがとうございます。以上で、第9回鳥取市校区審議会

を閉会いたします。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 松ノ谷 博

署名委員 大 村 匡 由